

弟の蘇轍との間で交わされた詩文

蘇軾・蘇轍の兄弟は、一緒に暮らす機会は数えるほどしかなかったが、生涯仲の良い兄弟で、二人の間に交わされた詩文にはかけがえのない兄弟愛にあふれている。

☆一〇六一年、蘇軾が鳳翔府簽判せんぱん（高等事務官）として官吏の第一歩を踏み出した時が最初の別れ。蘇轍は老父の世話の為、開封にとどまった。（二十六歳）

「辛丑十一月十九日既與子由別於鄭州西門之外馬上賦詩一篇寄之」

☆一〇六一年、東坡が鳳翔府へ赴く道筋で、五年前、最初の上京の折に泊った

澠池べんち（河南省澠池県）の寺を再び訪れた時、轍から当時を回想した詩が送られてきた。（二十六歳の作）

「懷澠池寄子瞻兄」 蘇轍 これに東坡が律詩を和した。

「和子由澠池懷舊」

☆一〇六一年歳末、鳳翔府に在って歳暮に帰れない思いを子由に寄せた詩。

「歳晚三首」（餽歲・別歲・守歲）

☆一〇六三年、鳳翔府在任中の名勝・古跡を詠った作。

「和子由踏青」

☆一〇七一年、杭州在任中の作、蘇轍の長身を孔子になぞらえて詠った詩

「戲子由」（三十六歳の作）

☆一〇七九年、徐州の知事から湖州の知事に転任して徐州を去るとき、人民から慕われていて、さかんにひきとめられるさまを、弟の轍へ書き送った五首の詩の第一首。（四十四歳三月の作）

「罷徐州往南京馬上走筆寄子由五首其一」

☆一〇七九年、朝政誹謗の科により捕らえられ、御史台に拘禁された時に死を覚悟して、獄中で二詩を作り子由に遣った。

「予以事繫御史臺獄，獄吏稍見侵，自度不能堪，死獄中，不得一別子由，故作二詩授獄卒梁成，以遺子由，二首其一」「其二」

元豊二年（一〇七九）四十四歳三月の作。徐州の知事から湖州の知事に転任して徐州を去るとき、人民から慕われていて、さかんにひきとめられるさまを、弟の轍へ書き送った五首の詩の第一首。

罷徐州往南京馬上走筆寄子由五首其一

徐州を罷めて南京に往かんとし馬上に筆を走らせて子由に寄す

- 1 吏民莫拔援
吏民 拔援する莫かれ
- 2 歌管莫凄咽
歌管 凄咽する莫かれ
- 3 吾生如寄耳
吾が生は 寄するが如きのみ
- 4 寧獨爲此別
寧ぞ独り 此の別れを為さん
- 5 別離隨處有
別離は 随処に有り
- 6 悲惱緣愛結
悲惱は 愛に縁つて結ばる
- 7 而我本無恩
而うして我は 本恩無し
- 8 此涕誰爲設
此の涕は 誰が為めに設くるや
- 9 紛紛等兒戲
紛紛として 兒戲に等し
- 10 鞭鞞遭割截
鞭と鞞との 割截に遭うは
- 11 道邊雙石人
道の辺なる 双つの石人
- 12 幾見太守發
幾たびか 太守の発するを見し
- 13 有知當解笑
知る有らば 当に解く笑うべし
- 14 撫掌冠纓絶
掌を撫ちて 冠纓絶たん

【語句】 ○南京：南都。河南省商邱県。三月十日に着く。○拔援：拔は攀と通じ、ひく。援は引。○歌管：管は篪（ち横笛の一）に似た六孔の楽器。竹製の管楽器の総称でもある。○吾生如寄耳：寄とはかりに身をよせること。蘇軾の詩中、しばしばみえる句である。吉川幸次郎「宋詩概説」一四六頁参照。○紛紛：衆多のさま。○割截：截は断ちきる。○解：能と同様に用いられる。○冠纓絶：纓は冠の紐。史記滑稽列伝に「淳于髡仰天大笑、冠纓索絶」索隠に「案ずるに索の訓は、尽（ことごと）く、なり。尽く絶つを言ふなり。孔衍春秋後語に亦た、冠纓尽く絶つ、に作る」。

【解釈】官吏たちも人民たちも、そんなにわたたくしをひきとめないでくれ。送別の歌も、その曲を吹く笛の音も、そんなにむせび泣かないでくれ。わが生涯はおもえば仮りのやどりのようなもの、その定めない一生に別離を体験するのは決してこのたびばかりではあるまい。別離はここかしこにあるもの、その悲しみその悩みは恩愛のきずなによって結ばれる。ところでわたしは知事としてなんの恩恵をも施したおぼえはない。あなたがたのこの涙は誰のために流されるのか。（まして、わたしが離任するのを阻止しようと）馬の鞭や鞞がしばしば切りとられるというのは、子どものいたずらにひとしいではないか。まちの入口の道ばたに二つの石像が立っている。彼らはいくたび太守の出発を見送ったことか。彼らにもし知覚があるならば、きつとたなごころをうって、彼らの冠の紐がひきちぎれるまでに大笑いするにちがいない。

「蘇軾」近藤光男より抄出